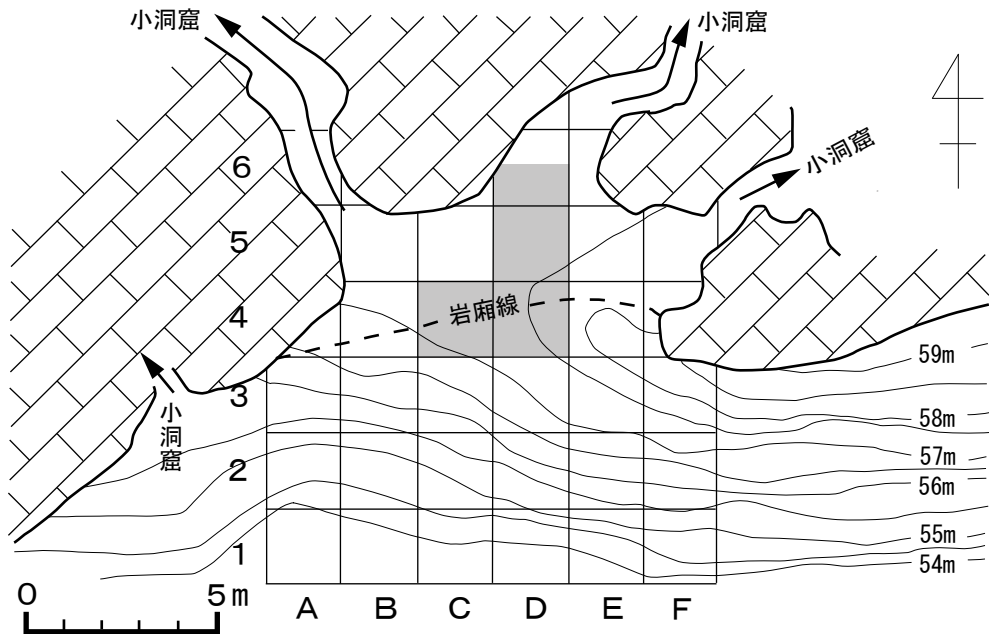




2012年度 帝釈峡遺跡群発掘調査 I期 (8月3日～8月10日)

帝釈大風呂洞窟遺跡第17次調査I期

大風呂洞窟遺跡は広島県神石高原町永野字大風呂に所在する洞窟遺跡で、直下には帝釈峡遺跡群を代表する観音堂洞窟遺跡が存在します。遺跡は帝釈川の支流である岩屋谷川の左岸に位置し、川からの高さは約57mです。遺跡は南向きに開口しており、日当たりがよく生活しやすい環境であったと考えられます。本遺跡はこれまでの調査で縄文時代草創期～早期から中世にかけて断続的に使用されていたことが分かっています。



第1図 帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図  
(網掛け部が今年度の調査区)

昨年度の調査では主にC・D・E-4区で、本遺跡の最下の文化層（縄文時代草創期～早期）である第5層を中心に発掘を行いました。人工遺物の出土はありませんでしたが、第5層以下の東西方向の堆積状況について知ることが出来たほか、C-4区の第5層下部～第6層上面からは縄文時代よりも古い、更新世のものとみられる動物化石が発見されました。

本年度は2008年度の調査で遺構の確認されているD-5区を中心にD-6区、C・D-4区を対象として遺跡の使用状況や遺物の分布の調査を主な目的として発掘を行います。また、当遺跡からは埋葬遺構が確認されておらず、これまで深く掘り下げられていない洞奥側で、その有無も検討します。

本年度最初の調査となる今期間では、遺跡へ登る道の整備と調査区の清掃に始まり、D-5区を中心に掘り下げを行いました。今期間は天候に恵まれ、夏の暑さの下ではありましたが無事に毎日調査を行うことが出来ました。その結果、D-5区に検出されていた炉跡と思われる焼土面の下位から新たな焼土面が発見され、より古い時期の焼土面の分布が明らかになりました。同じくD-5区では、焼土面の南側から食料となったシジミの貝殻が集中して確認され、その中からサヌカイト製の石鏃や剥片も一緒に発見されました。今まで掘り下げられていなかったD-6区の発掘も始まり、今後の発掘によって更なる遺物・遺構の発見が期待されます。そして、人々がどのような目的を持って大風呂洞窟遺跡を使用していたかを明らかにしていきます。

D-5区は、古代・中世でも炉跡が集中していましたが、縄文時代でもやはり以上のように炉跡が次々に発見されており、生活、利用の中心の場所とみられます。これからの調査では、D-5・6区を中心に調査を行っていきますので、今後の成果にご期待ください。

（3年 赤木智香）



写真1 発掘調査風景



写真2 掘り出した土をリフトを用いて降ろす様子

### コラム1 大風呂洞窟遺跡での発掘の日々

私は今回、大風呂洞窟遺跡での発掘調査に参加しています。考古学というものがキツイ・汚い・危険の3Kの学問であることを聞いていて、発掘作業がどのようなものかまったくわからなかった僕は、作業に出発する前はひたすら不安に駆られていました。しかし実際に発掘調査が始まってみると、食事や掃除の当番制や、現場での係りの割り当てなどが必要となる集団生活において、自分が負う責任や協調性、そして自分で考えて動くことの重要性が身にしみて改めて実感することが出来ました。また、現場での調査において、すでに水洗作業で二枚貝と思われる貝片を確認することができたり、先輩が獣骨を確認することが出来たりと、実際に遺物が出土する過程を目の当たりにし、発掘作業の楽しさを味わうことが出来るようになりました。これからの作業でも、分からないことや困難なことに多くぶつかると思いますが、さらなる上達を目指して頑張っていきたいと思います！（2年 金森大輝）

### コラム2 帝釈の朝

朝、5:50に耳元でアラームが鳴ります。今日は食事当番、皆のご飯を作らなければなりません。材料は昨日の晩に切っていますが、なにせ人数が多いうえ、お昼のお弁当も作るので、7:30の朝食に間に合うには6:00には絶対に起きようと10分前に目覚ましをセットしました。低血圧な体に鞭打って、なんとか体を起して時計を確認。6:00…目覚めから起き上がりまで10分。予想の範囲内です。むしろ、二度寝せずに起きられて上々です。

朝食を作ったら、昨日の内にいされた服を洗濯機に押し込みます。発掘はたくさん汗をかきますし、土などでよく汚れるので毎日たくさん出ています。一度では決して終わりません。一度目のスイッチを入れたらそろそろ皆起きてきます。

朝食は、メニューが決まっていますが、当番によって作り方に個性があって面白いです。おみそ汁の味の濃さや、ご飯の炊き具合など、意外と飽きずに食べられます。発掘調査をやりきるために、しっかり朝は食べることにしています。

朝食のあとは片付けと二回目の洗濯、お掃除など、やることはたくさんあります。忙しく動き回っていると当番でない人が先に発掘へ。私を含め、当番の人はお見送り。残りの仕事を片付けたあと、私たちも現場へ向かいます。帝釈峡の涼しい朝、一日の始まりはこんな感じです。（3年 中田南美）

## 人物往来

8月6～9日 阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター 谷岡能史さん

8月8日 中国新聞社 林淳一郎さん

## 参加者名簿（I期8月3日～8月10日）

広島大学大学院文学研究科 教授 古瀬青秀

〃 准教授 竹広文明

〃 大学院生 脇山佳奈 (D) (資料調査)・松永直輝 (M 1)

広島大学文学部学生 関内由衣 (4年生) 赤木智香・上利碧月・川添敦史

中田南美・林 美和 (3年生) 金森大輝 (2年生)

## 陣中見舞い

伊藤さん 飲料

谷岡さん 野菜

赤木さん 飲料

林さん 飲料

上田さん 飲料

また、地元の皆様には物心両面で大きくご支援いただいております。調査参加者一同非常に感謝しております。末筆ではございますがこの場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。そして、本年度も宜しく申し上げます。

## 編集後記

本年度も帝釈峡遺跡群の発掘調査が始まりました。調査は今年で51年目を迎えます。これほど長く調査が続けられているのも地元の皆様の支援があつてこそです。改めてお礼申し上げます。誠にありがとうございます。

本年度の調査は天候に恵まれたこともあり、順調に進んでおります。調査の成果は8/19(土)に現地説明会を開催し、発表する予定です。私たちの調査成果を知っていただく機会となっておりますので、お忙しい中とは存じますが、ぜひ奮ってご参加ください。

本年度の調査はまだ始まったばかりです。大胆かつ慎重に調査を進めてまいりますので、成果を期待してください。本年度も宜しく申し上げます。 (編集 松永)

広島大学考古学研究室 〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3 (Tel:0824-24-6663)

帝釈峡遺跡群発掘調査室 〒729-5554 庄原市東城町帝釈未渡野田原 (Tel:08477-6-0101)

研究室ホームページ URL <http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko>